



東京大学駒場博物館

トリニティ・カレッジ・ダブリン=東京大学学術協定締結記念

# W. B. イェイツとアイルランド展

## オープニングイベント

2012年5月19日午後2時開演  
於 東京大学駒場キャンパス18号館ホール

## 第一部 詩とハープの調べ

1. ‘The Lake Isle of Innisfree’  
「湖の島イニスフリー」
2. ハープ演奏 ‘A Sligo Air’ 「スライゴの歌」
3. ‘The Stolen Child’  
「さらわれた子供」
4. ‘The Wild Swans at Coole’  
「クールの野生の白鳥」
5. ハープ演奏 ‘Molly MacAlpin’ 「モリー・マカルピン」
6. ‘The Second Coming’  
「再臨」
7. ‘Nineteen Hundred and Nineteen’ (part III)  
「一九一九年」 (第三部)
8. ‘In Memory of Eva Gore-Booth and Con Markiewicz’  
「イヴァ・ゴア＝ブースとコン・マーキエウィッツの思い出に」
9. ハープ演奏 ‘Foggy Dew’ 「深い霧」
10. ‘A Dialogue of Self and Soul’  
「自我と魂の対話」
11. ハープ演奏 ‘Inis Oirr’ 「東の島」
12. ‘The Circus Animals’ Desertion’  
「サーカスの動物たちは逃げた」
13. ‘Politics’  
「政治」

【詩】 ウィリアム・バトラー・イエイツ

【翻訳】 高松雄一（岩波文庫『対訳イエイツ詩集』）

【ハープ演奏】 寺本圭佑

【朗読】 ウィリアム・バトラー・イエイツ（録音）

クライブ・コリンズ

ポール・ロシター

アンドルー・フィッツサイモンズ

野上高弘

吉田妙子

河合祥一郎

藤本強

\*日本語訳の使用をご許可いただきました高松雄一東京大学名誉教授と出版元である岩波書店に、厚く御礼申し上げます。

## 第二部 朗読劇『骨の見る夢』 *The Dreaming of the Bones*

【作】ウィリアム・バトラー・イエイツ

【翻訳・演出】河合祥一郎

【音楽】W. M. ルンメル、寺本圭佑編曲

【配役】

ハーブ	寺本圭佑	若者	藤本強
笛	渡邊秀介	見知らぬ男	河合祥一郎
歌手	野上高弘	若い女	吉田妙子

【背景・字幕】中尾まさみ

【アイルランド語指導】加太康孝

【あらすじ】

1916年復活祭蜂起が鎮圧され故郷のアラン島へ逃げ帰る若い兵士が、暗い山中を海岸に向かう途中、見知らぬ男と若い女に呼び止められる。道案内をしながら身の上を語るその二人は、700年前に海の向こうからノルマン人を招き入れ、イングランドによるアイルランド支配の端緒を開いたディアミドとダヴォルギラの亡霊であった。同じアイルランド人に「許す」と言われることで呪いが解けると言う二人に、若者は…。

【解説】

『骨の見る夢』は、1917年に執筆され、1919年にクアラ・プレスから400部限定出版された後、1921年にロンドンのマクミラン社から『踊り手のための四つの戯曲』として出版された。この戯曲を理解するためには、四つのことがらについて知らなくてはならない。

まず、**ディアミドとダヴォーギラ**の物語。ディアミド・マクマローは、12世紀レンスターの王で、敵対する王ティアナン・オルークの王妃ダヴォーギラを略取したが、これは二人の恋人の逃避行の物語として語り継がれている。嫉妬と復讐心に燃えたオルークらにより国外へ追放されたディアミドは、イングランド王ヘンリー二世に助けを求め、これがその後700年に亘るイングランドのアイルランド支配の端緒となった。劇中の恋人たちは、この罪のために亡霊となって彷徨う運命にある。アイルランド史上の物語ではあるが、イエイツはこの恋人たちの姿にダンテの『神曲』に登場するパオロとフランチェスカ、さらにはアーサー王伝説の宮廷風恋愛など汎ヨーロッパ的な文学伝統の系譜を結びつけている。

二つ目は、**復活祭蜂起**。1916年復活祭に共和主義者たちが起こした蜂起は、たった数日で鎮圧された。それ自体失敗に終わった独立闘争はしかし、自治、そして独立へとアイルランド史の歯車を強く動かす契機となった。蜂起に参加した「若者」の登場は、この劇に生々しい同時代性を与えると同時に、混乱の極みにあったその時期のアイルランドを12世紀の物語の負の遺産の直接の継承者と位置づける。

三つ目は、日本の**能**の影響である。1913～16年にエズラ・パウンドとともに創作活動を行ったイエイツは、東洋学者アーネスト・フェノロサによる能の訳を紹介され、その象徴的な劇作法に魅了される。『骨の見る夢』には、生前結ばれなかった恋人たちが旅僧に身の上を語る夢幻能『錦木』の影響が顕著で、イエイツの他のどの劇よりも能に近いと言われている。この夢幻能の構造と結びつけられるのが四つ目、イエイツがその著作『ヴィジョン』などで言及する**夢見回想**である。それによれば、罪を犯した者は死後亡霊となって生前犯した罪を繰り返し生き直すという呪いを受けるという。イエイツはこれを文化を超えた根源的な想念と捉えていた。

『骨の見る夢』では、こうして情熱と裏切りが個人と国家という異なる局面で交錯し、アイルランド、ヨーロッパ、日本と異なる文化伝統を抱え込みながら、一夜の夢として幻想的に浮かび上がる。装飾を排した象徴性の高い舞台が、それを緊張感をもって観客に伝えるのだ。

## 【出演者紹介】

### クライブ・コリンズ Clive Collins (朗読)

東京大学教養学部外国人教師。小説家。作品に、小説 *Sachiko's Wedding* (Marion Boyars Publishers, 1990; Penguin Books, 1991)、短編集 *Misunderstandings* (Marion Boyars Publishers, 1993) など。 *Misunderstandings* は、1994年 Macmillan Silver PEN Award を受賞した。

### ポール・ロシター Paul Rossiter (朗読)

2012年3月に東京大学教授を定年退職。詩人。著書に *First Moves: An Introduction to Academic Writing in English* (東京大学出版会, 2004)、詩集 *The Painting Stick: Poems 1991-2002* (Pine Wave Press, 2005) など。

### アンドルー・フィッツサイモンズ Andrew Fitzsimons (朗読)

学習院大学教授。詩人。著書に *The Sea of Disappointment: Thomas Kinsella's Pursuit of the Real* (University College Dublin Press, 2008)、編著書 *Thomas Kinsella: Prose Occasions 1951-2006* (Carcenet Press, 2009)。

### 寺本圭佑 (ハープ)

アイリッシュ・ハープ奏者、研究者、教師。演奏会やレクチャーコンサート、ワークショップを通して、世界的にも奏者が少ない金属弦アイリッシュ・ハープの普及に献身。都内や横浜、京都を中心として精力的に全国で活動をしている。2012年、スペイン人古楽ハープ奏者ヴィセンテ・ラ・カメラの日本ツアーを企画運営。18世紀アイルランドのハープ音楽研究で博士号取得(明治学院大学)。同大学非常勤講師。日本画家の妻と愛猫と横浜市に在住。

### 吉田妙子 (朗読・「若い女」)

新国立劇場演劇研修所卒(2期生)。卒業後、『雨』『水の手紙』(栗山民也演出)、『真田風雲録』(蜷川幸雄演出)、『三人姉妹』(山崎清介演出)などの舞台に出演。また、武田薬品ストレージ、I T J 法律事務所、SONYハンディカムなど、TVCMにも出演中。昨年より人形劇の制作に取り組み、本年より本格的に活動を始めている。放映新社所属。

### 藤本強 (朗読・「若い男」)

新国立劇場演劇研修所卒(5期生)。24歳、現在フリー。主な舞台に修了公演『The Art of Success』(栗山民也演出)ほか。今年のシェイクスピア祭『夏の夜の夢』でボトムを演じた。今年6月17日10:30~日本ロレンス協会主催、ロレンス作・小田島恒志演出『ホルロイド夫人やもめになる』(成城大学大教室)、8月19~26日小野寺修二カンパニーデラシネラ公演(KAAT神奈川芸術劇場)出演予定。

### 野上高弘 (朗読・「歌い手」)

今春、明治大学卒業(演劇学専攻)。明治大学文化プロジェクトで2008年『十二夜』のフェステ、2009年ハムレットを演じ、昨年シェイクスピア祭の朗読劇『十二夜』で歌、ギター、歌唱指導を担当、今年のシェイクスピア祭『夏の夜の夢』でパックを演じた。

### 渡邊秀介 (笛)

東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程在学中。アイルランド文化研究に携わる傍ら、アイルランド伝統音楽の演奏活動も行っている。演奏楽器は、フルートやバグパイプなど。ルーツミュージックバンドSenmu-tains主催。

### 河合祥一郎 (朗読・「見知らぬ男」)

東京大学教授。

### 中尾まさみ (司会)

東京大学教授。